

令和4年度（2022年度）

金沢大学法科大学院

入学試験問題

刑 法

D日程入試

（注意）

1. 問題冊子（表紙を含む）は2枚です。
2. 問題冊子は指示があるまで開かないで下さい。
3. 問題冊子と下書き用紙は持ち帰って下さい。
4. 解答は、鉛筆、シャープペンシル、ペン、ボールペンのいずれで記入しても構いません。
5. 解答にあたっては、どの問題から解答しても構いません。ただし、どの問題についての解答であるのかを答案中に明示してください。

令和4年度（2022年度）金沢大学法科大学院入学試験問題

試験科目	刑	法
------	---	---

以下の問題について解答しなさい。

問題1（各5点）

以下の語句あるいは概念を説明しなさい。解答の際は、定義だけを記述するのではなく、学説の議論状況や判例の状況など解答すべき内容を問題に応じて自ら選択し、具体的な事例を自ら設定したうえでそれぞれ解答用紙5行程度で解答すること。

（1）名誉毀損罪における真実性の誤信

（2）賄賂罪の保護法益

問題2（15点）

次の事例におけるXの罪責を論じなさい。ただし、住居侵入罪および特別法違反の点は論じる必要はない。

Xは、仇敵Aを殺害しようと企て、Aが1人で住む家に深夜侵入して、Aの寝室内でAが使用する布団の膨らみに向けて持っていた包丁を思い切り突き立てた。しかし、Aはその当時県外に出張中であり、布団にはAが普段使っている抱き枕のみが置かれている状態であった。翌日、Aの殺害に失敗したことを知ったXは拳銃を持ってA宅に向かい、出張から帰ってくところのAに向かい至近距離から引き金を引いた。しかし、Xは前日に拳銃を手入れしたのち銃弾を装填するのを忘れていたため、拳銃から銃弾は発射されず、Aに怪我はなかった。Xはそのまま逃走した。

以上